

スマートシティの実現に向けたニーズ提案書

様式2

提出年月日： 令和2 年 3 月 26 日

地方公共団体名： 埼玉県熊谷市

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

本市は、第2次熊谷市総合振興計画基本構想において「多核連携型コンパクト&ネットワークシティ」を目指すこととしており、併せて、第2期熊谷市総合戦略において、人口減少対策の視点から、スマートシティの推進を図ることとしている。この推進にあたり、「都市の抱える諸問題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメントが行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市」に向けて、公民が連携して、取り組みを進めていく体制を構築する。

本市は日本一暑いまちとして全国に知られる一方、環境省の推奨する「熱中症予防声かけプロジェクト」における「ひと涼みアワード」でトップランナー賞を6回受賞するなど、暑さ対策日本一を目指した取組を進めている。このノウハウを生かしつつ新技術・サービスを導入し、市民が快適に暮らせるスマートシティの実現を目指し、各種プロジェクトの社会実装を進めていく。対象地域としては、市全域と捉えているが、市内における主要公共交通機関の結節点であるJR熊谷駅、JR高崎線における主要な始発駅であるJR籠原駅を軸とする。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>1(ア)交通・モビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊谷ラグビー場でのトップリーグの開催等、交通需要の集中による会場周辺の渋滞や熊谷駅前のバス待ち行列等によりまちの魅力の低下が懸念される。 駅を中心としたバス路線網の維持や交通不便地域の解消等、市内のモビリティの維持・向上が課題である。 <p>(イ)エネルギー(ク)環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内観測史上最高の41.1℃を記録し、過去100年間の平均気温が全国平均の2倍近い上昇率となっている。 気温上昇などにより熱中症による救急搬送者数が増加傾向にある。 令和元年5月から9月の熱中症による死亡事案は2件であり、これは同期間の市内交通事故死亡者数と同数である。 <p>(ウ)防災(エ)インフラ維持管理(老朽化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内は荒川や利根川が流れ中小河川、用水路も多い。こうした中、都市化の進行により市街地内の浸水が増加傾向にある。 河川等の管理主体が異なっていることもあり、情報の連携を図る仕組みがない。 短時間の豪雨が増加傾向にあるなど、気候変動への対応が必要である。 <p>(オ)地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生・社会人等の若年層の転出が顕著である。 若年層にも魅力的な産業の振興、雇用の場の提供が必要である。 地域産業の次世代の担い手確保が必要である。 市内農地は耕作放棄地が増加傾向にある。 <p>(カ)健康・医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の平均寿命は、県平均と比較して男性が0.3歳、女性は0.7歳低い。 健康寿命についても県平均を下回っている。 市民の血糖値を県内で比較すると高い値にある。 スポーツが盛んな地域であるが、市民の成人病予防につながっていない。 	

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

(4)(7)暑さに対応したまち

- ・建物に木材を使い、低炭素・CO2の削減に努めるほか、街区単位での省エネまちづくりの推進
- ・エネルギーの地域内循環

(3)(4)(6)モビリティ

- ・スマートバス停の導入
- ・熊谷駅と熊谷ラグビー場等のアクセス改善に関するバス実証実験

(2)(4)(6)産業創造

- ・食・健康・スマート農業との連携による新ビジネス展開、水田在宅管理等による新たなライフスタイル、新産業の提案による担い手確保

(1)(4)ウェルネス

- ・熱中症ゼロ・逃げ遅れゼロの快適な健康まちづくり、医療データ等との連携・スポーツを通じた健康づくり

(4)安全・安心

- ・異種システム連携による防災・減災サービスの広域ネットワーク化

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

(4)(7)暑さに対応したまち

- ・建物改修・整備に地元木材を使い、CO2を削減し、街区単位の低炭素のまちづくりを進めることにより、暑さ対策と地球温暖化対策を推進する。
- ・工場排熱を利用した創エネルギーやエネルギー使用の効率化を目指した地域間のエネルギー融通を行う。
- ・地域内で使用するエネルギーを地域内で消費するようなエネルギーの地域内循環を目指す。

(3)(4)(6)モビリティ

- ・暑熱下でも熱中症になりにくい環境を整えつつ、バスロケーションやデジタル時刻表を搭載したスマートバス停を設置し、バス待ち環境の改善を図り、公共交通の利用促進につながる実証実験を行う。
- ・熊谷スポーツ文化公園の更なる魅力向上のため、自動運転バスの隊列走行やパークアンドバスライド等アクセス改善のための実証実験を進める。

(2)(4)(6)産業創造

- ・在宅での水田管理や農機具の自動運転を行うなど新たなビジネスモデル、ライフスタイルの提案により、地域産業の活性化、担い手の確保を目指す。
- ・まちなかでの地域内人材のマッチングや雇用の場の提供を行う。
- ・農業産出額が県内上位であり大都市近郊という立地特性を生かした高付加価値農業の展開を目指す。

(1)(4)ウェルネス

- ・暑熱下でも安全に歩くことのできるウォーカブルなまちを目指し、避暑・猛暑ポイント等の情報を随時共有するほか、各種データとのリンクにより、生活に役立つ情報の双方向化を図る。
- ・市内に本拠地を持つスポーツチーム等と連携し、医療データや健康データの集積、プラットフォームの形成、市民向け健康プログラムの開発・提供を行い、スポーツを通じた健康づくりを実践する。

(4)安全・安心

- ・国土交通省・埼玉県・市等の異なる管理主体が保有する水位センサー等の管理情報の連携を図り、身近な水害に対する情報共有システムを構築する。
- ・市内在住・在勤者のほか、一時的な滞在者も含め、誰でもいつでも参加できるバーチャル避難訓練システムを検討する。

(5) その他

※先行してシステム導入を行いたい地域や、既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、(5)にご記入ください。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総合政策部企画課	竹村、大澤	048-524-1111	kikaku@city.kumagava.lg.jp